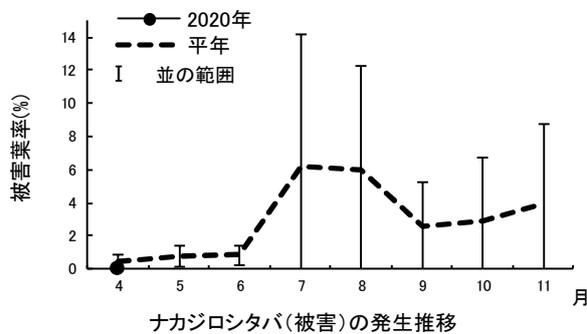
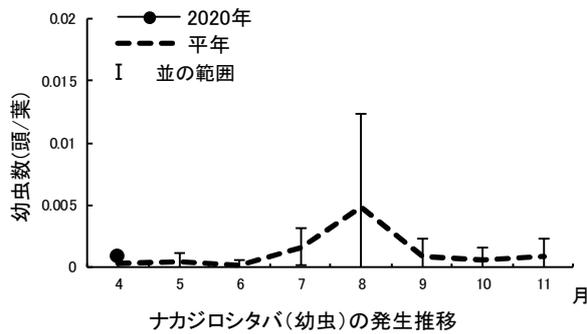


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	やや少	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

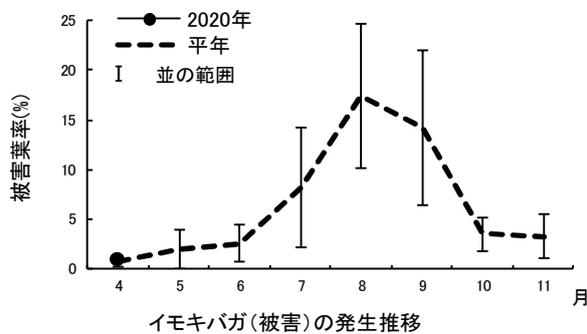
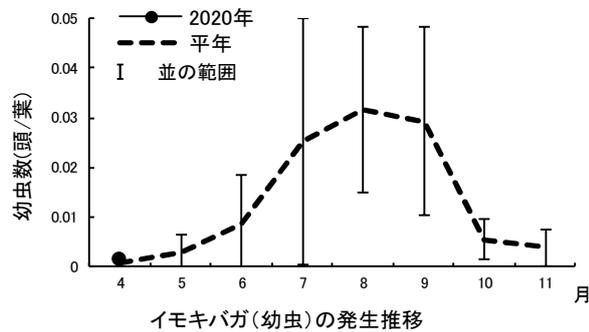


防除のポイント

- ・ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

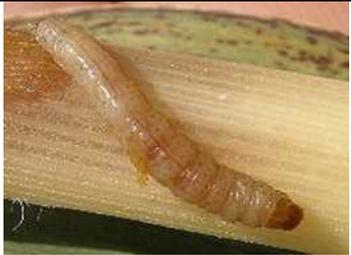
作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② イモキバガ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

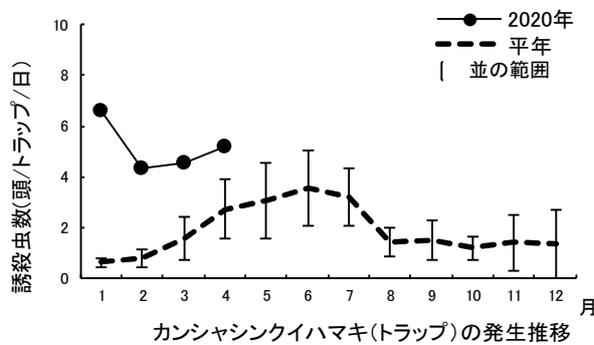
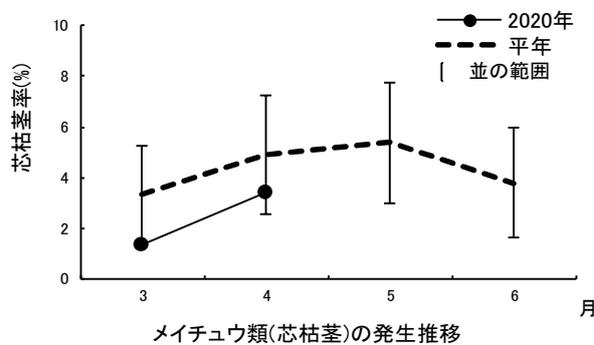


防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



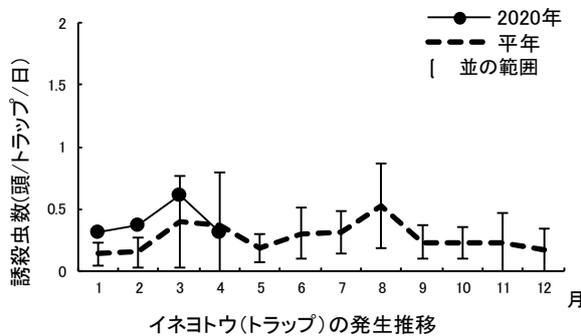
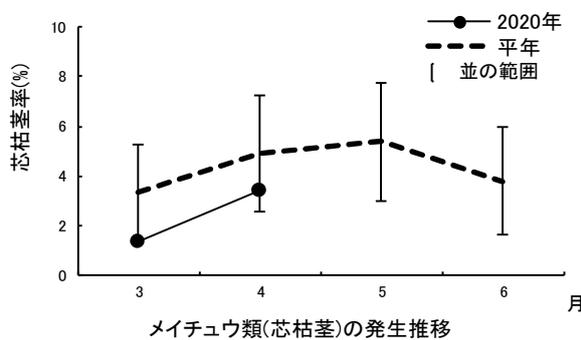
- ・ 沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の100%(49/49頭) がカンシャシンクイハマキであった。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



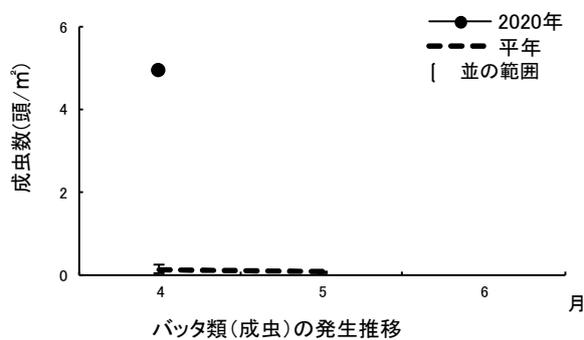
- ・沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の0%(0/49頭) がイネヨトウであった。

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび		地域	沖縄本島
病害虫名	バッタ類			
予報	5 月の発生量 (平年比)	多		
	4 月からの増減傾向	→		
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	多		
	その他 (気象要因など)			

調査結果



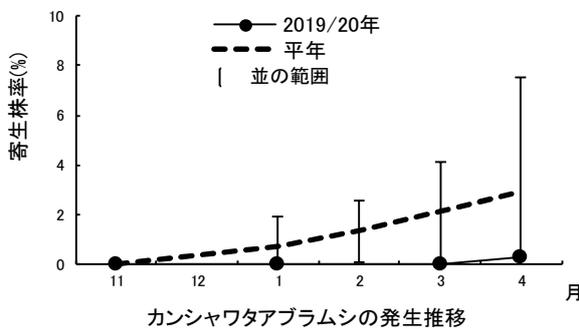
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、5～6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

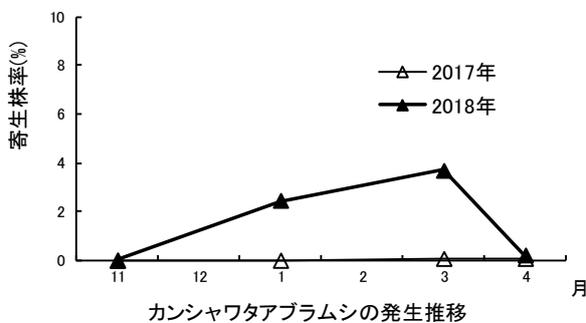
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	③ カンシャワタアブラムシ		
予報	5 月の発生量（平年比）	—	
	4 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



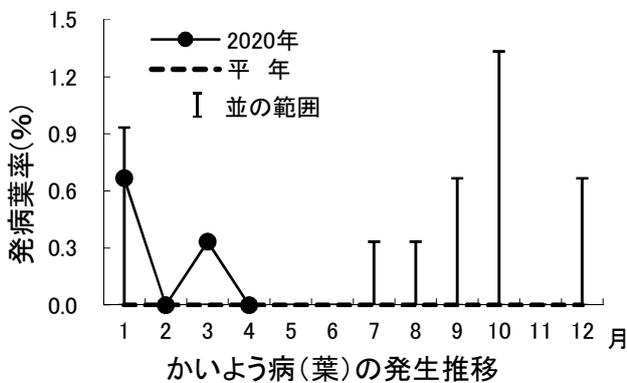
防除のポイント

- ・多発すると吸汁害及びすす病によりさとうきびの生育が遅延するため、早期発見・防除に努める。
- ・本種は秋期に飛来した有翅虫が第一世代となり、数世代にわたり増殖して春期の大発生を引き起こす。葉裏をよく確認し、発生が見られる場合は初期防除を行う。
- ・多発時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。
- ・捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる。

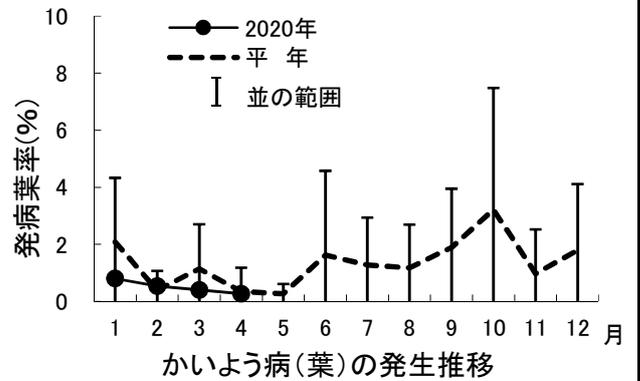
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	5 月の発生量（平年比）	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

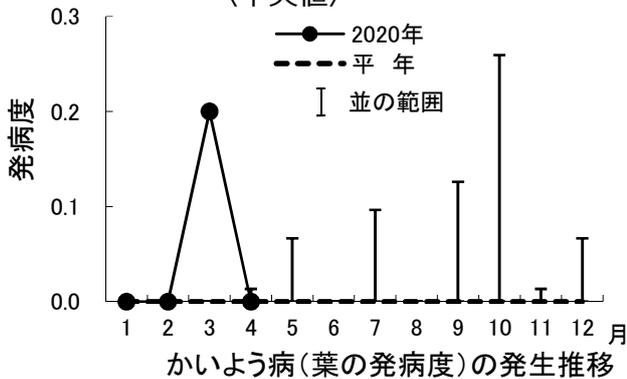
(発病葉率) <中央値>



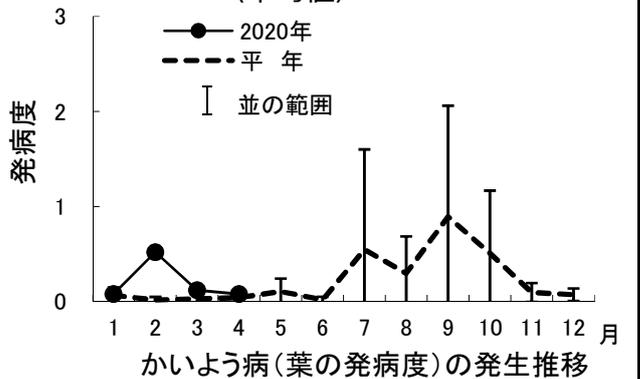
<平均値>



(葉の発病度) <中央値>



<平均値>



防除のポイント

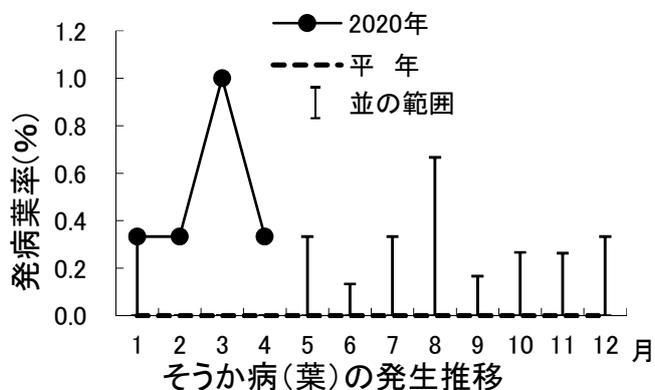
- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病枝、罹病葉を除去し、伝染源を極力少なくする。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
予報	5 月の発生量（平年比）	やや多	
	4 月からの増減傾向	↑	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	やや多	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の降水量が平年並の見込み	

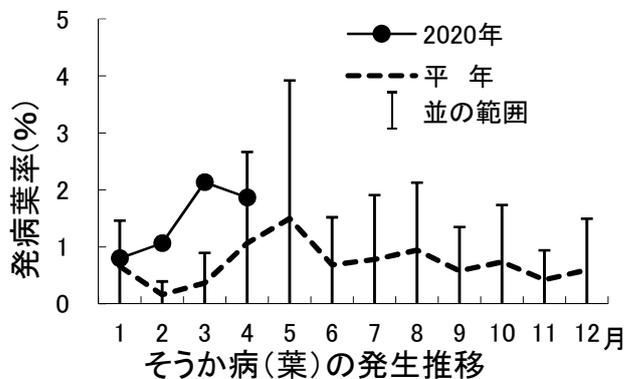
調査結果

(発病葉率)

〈中央値〉

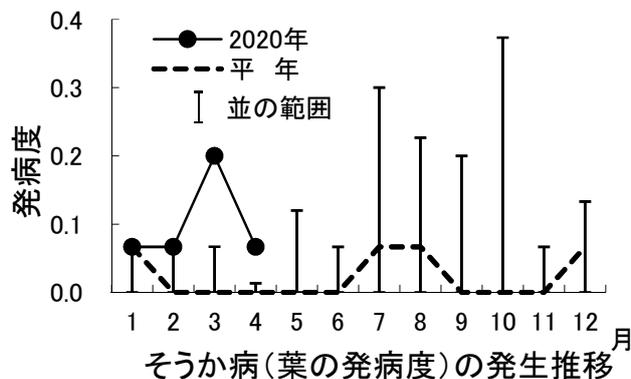


〈平均値〉

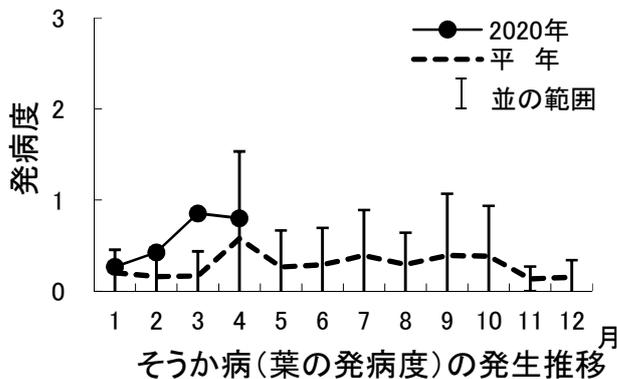


(葉の発病度)

〈中央値〉



〈平均値〉



防除のポイント

- 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

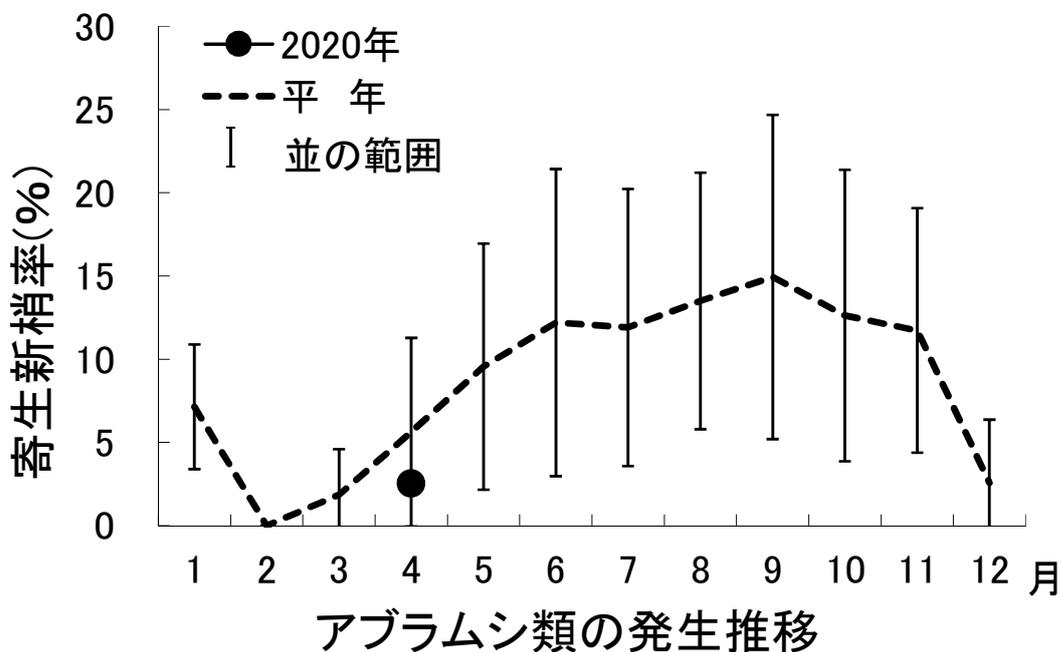
被害果→



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	5 月の発生量（平年比）	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	



調査結果



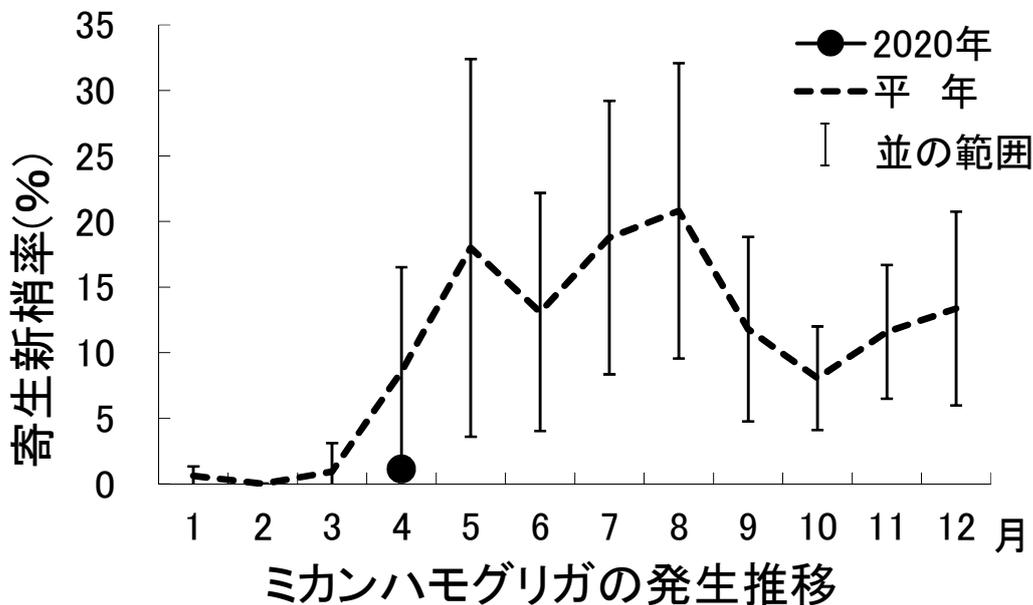
防除のポイント

- ・テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
予報	5 月の発生量（平年比）	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

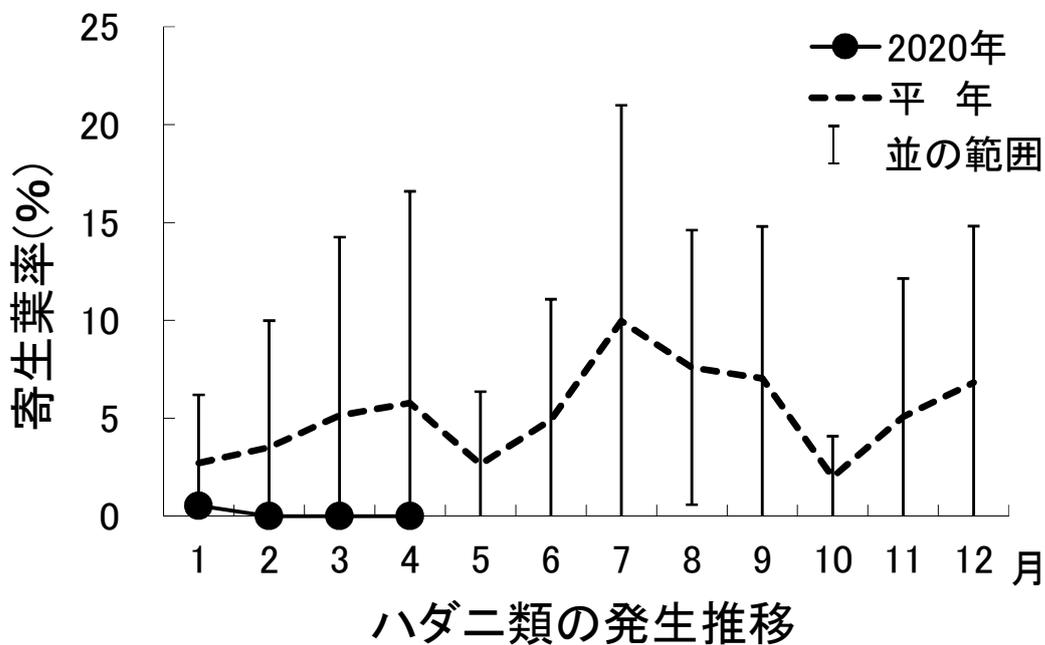


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすいため、除去に努める。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
予報	5 月の発生量（平年比）	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



・ 発生ほ場率：0%（平年26.3%）

防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

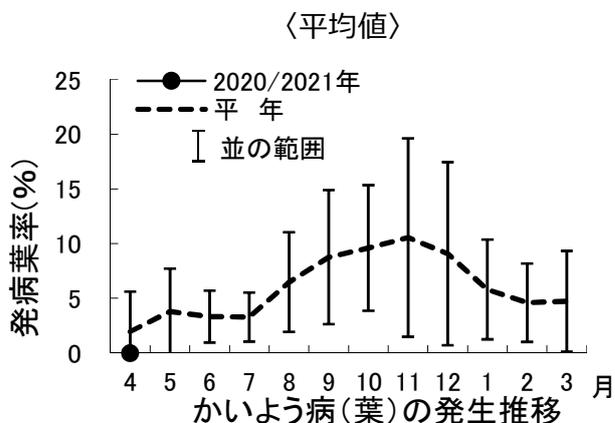
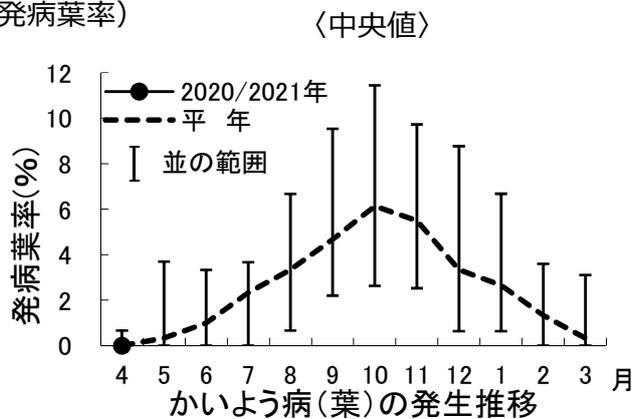


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

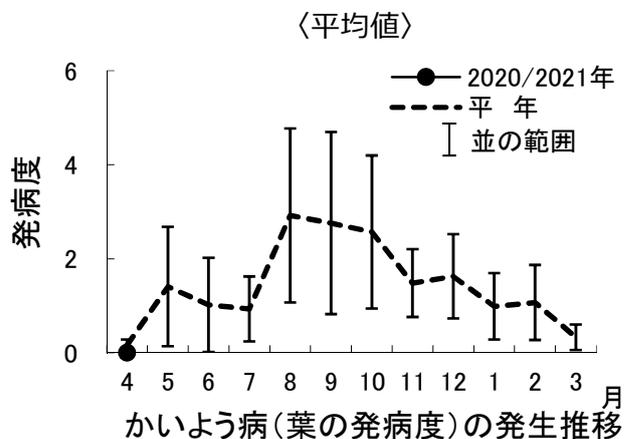
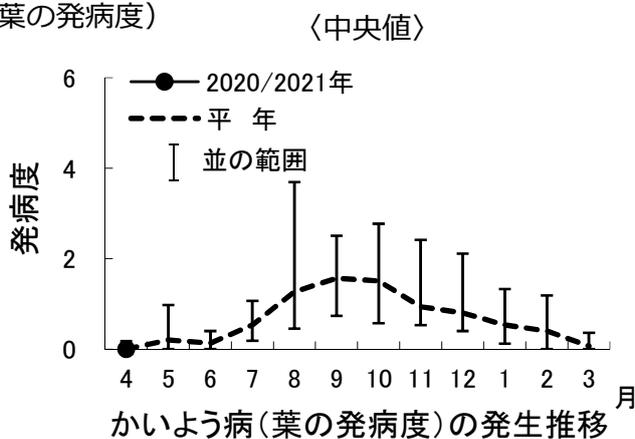
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の降水量が平年並の見込み	

調査結果

(発病葉率)



(葉の発病度)



防除のポイント

- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害葉→



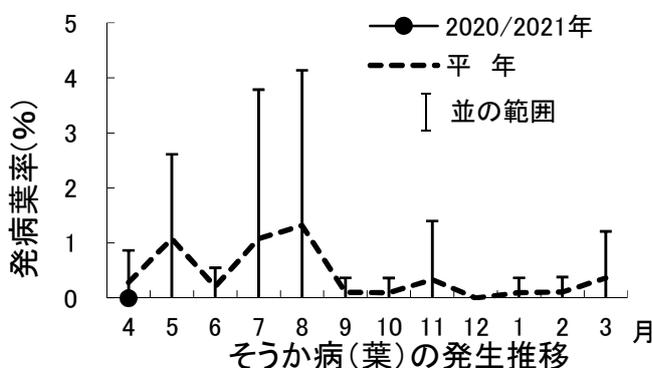
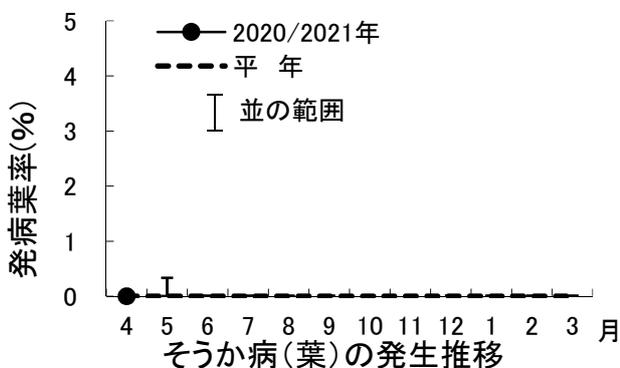
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

(発病葉率)

〈中央値〉

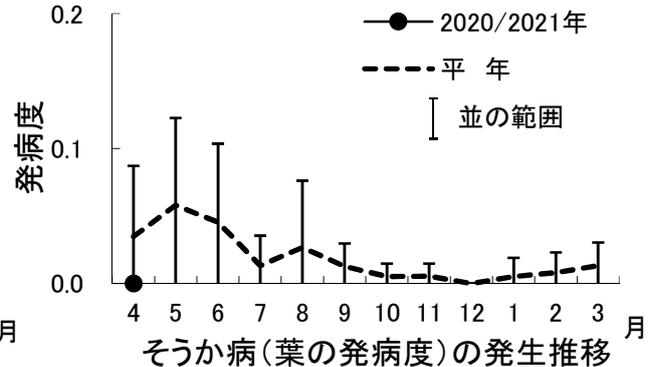
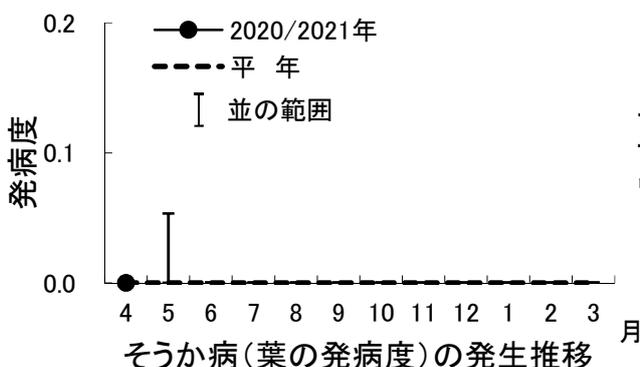
〈平均値〉



(葉の発病度)

〈中央値〉

〈平均値〉



防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

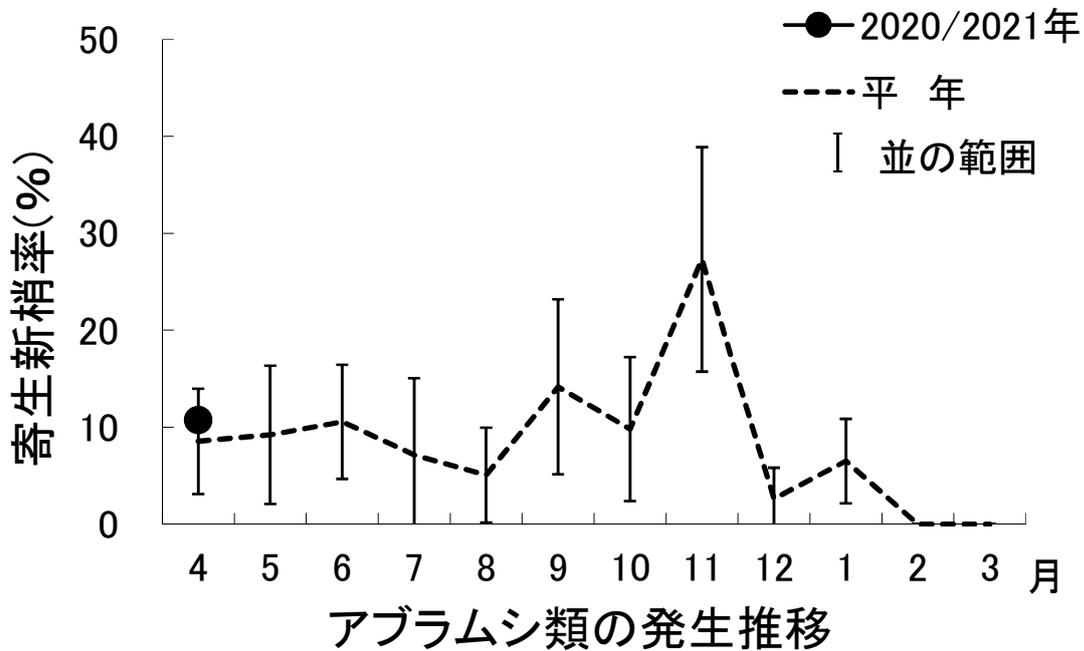
被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	5 月の発生量（平年比）	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	



調査結果



・ 発生ほ場率：80%（平年57.1%）

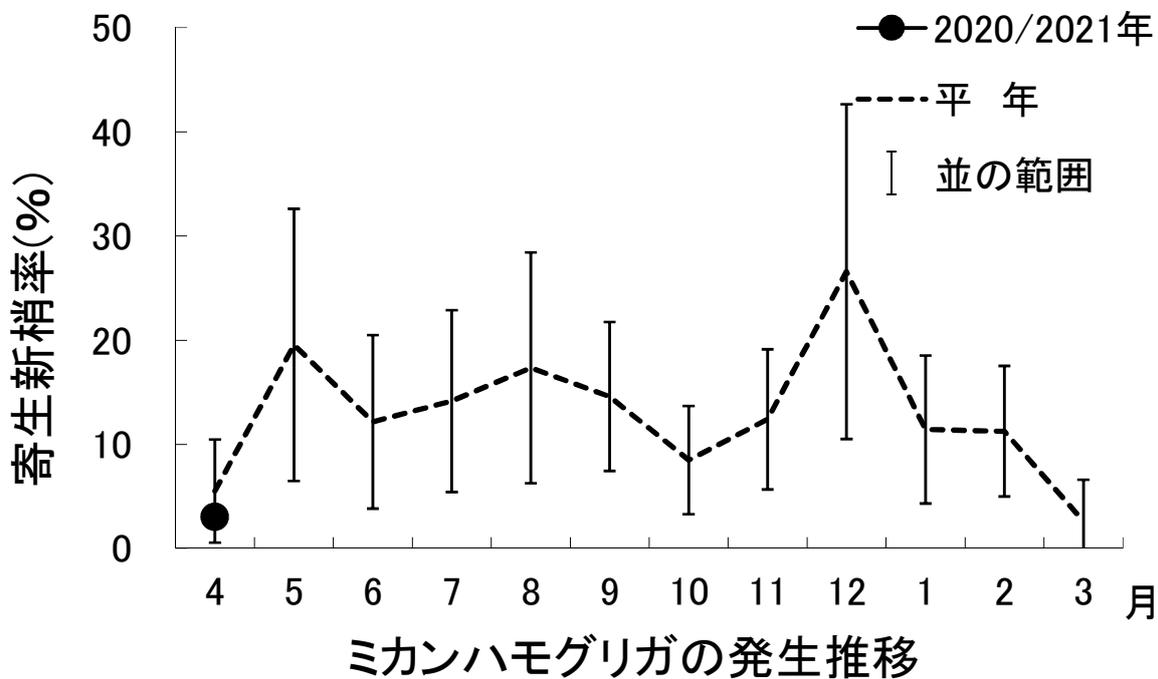
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
予報	5 月の発生量（平年比）	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	

調査結果



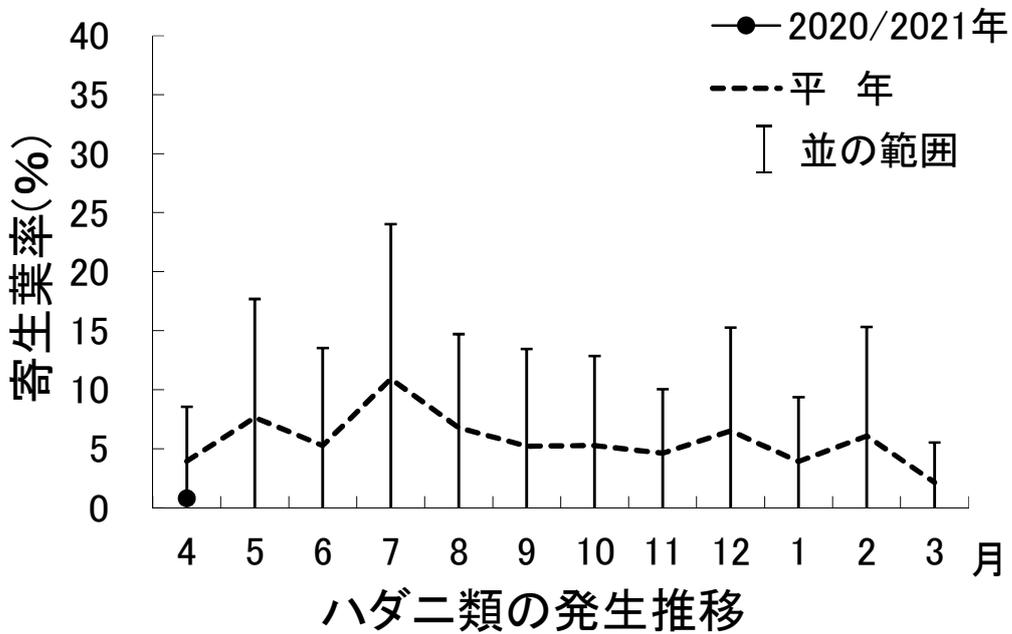
・ 発生ほ場率：40%（平年50%）

防除のポイント

- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類			
予報	5 月の発生量（平年比）	並		
	4 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）		

調査結果



・ 発生ほ場率：20%（平年28.9%）

防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

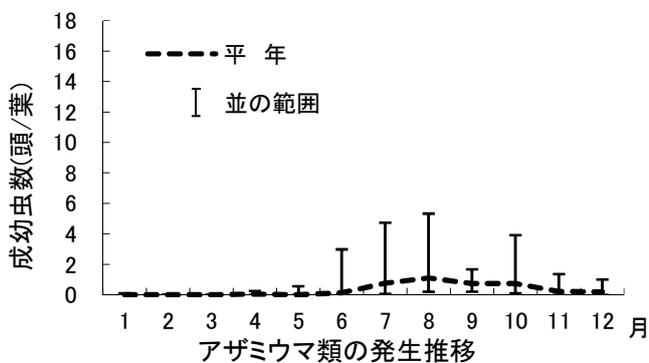


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

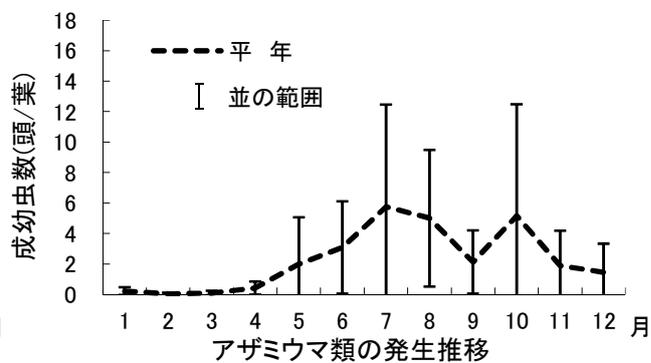
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	—	
	4 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	—	
	その他 (気象要因など)	—	

調査結果

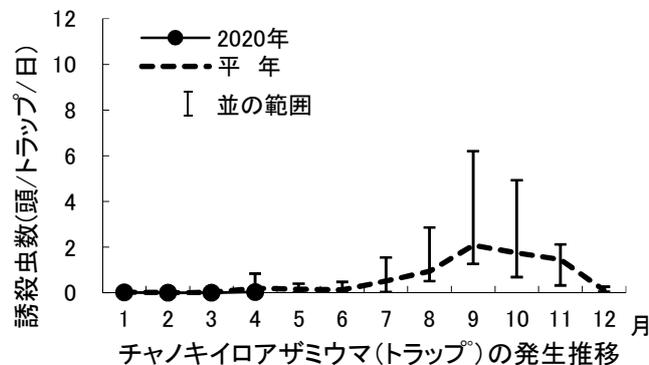
(見取り調査) <中央値>



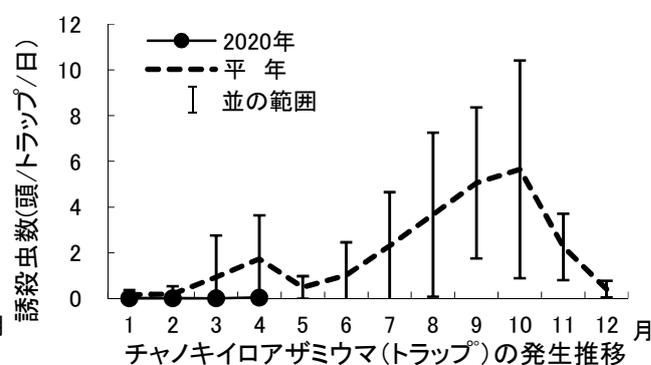
<平均値>



(トラップ調査) <中央値>



<平均値>



- ・見取り調査は、新梢数が基準に満たなかったため4月のデータなし
- ・トラップ調査の誘殺ほ場率：50% (平年91.2%)

防除のポイント

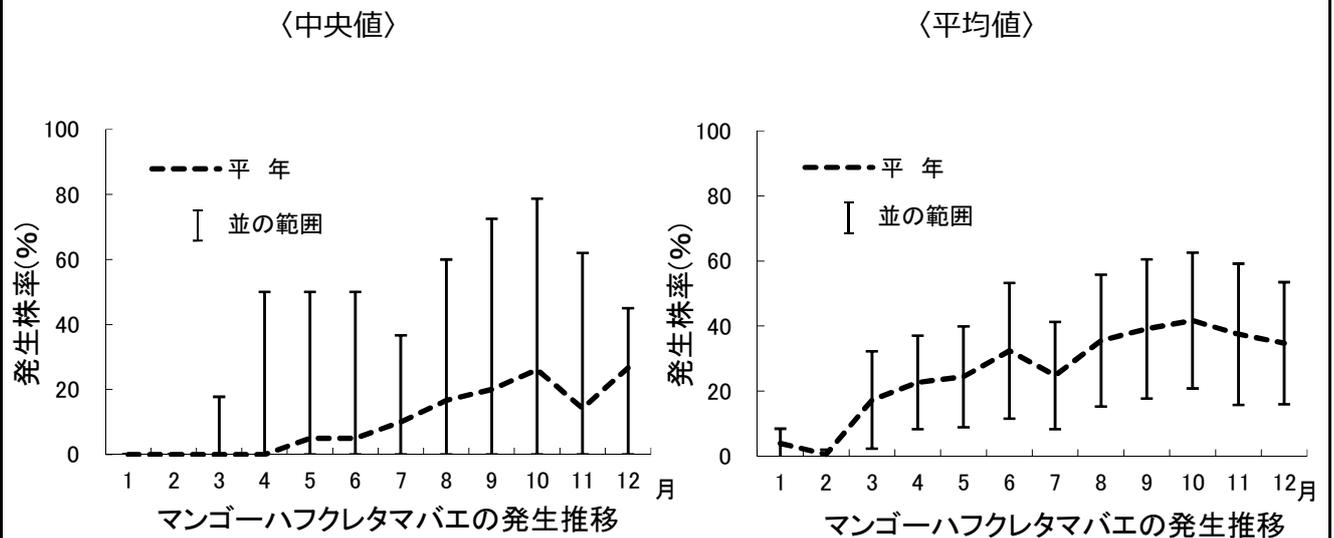
- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	マンゴーハフクレタマバエ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	—	
	4 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	—	
	その他 (気象要因など)	—	

調査結果



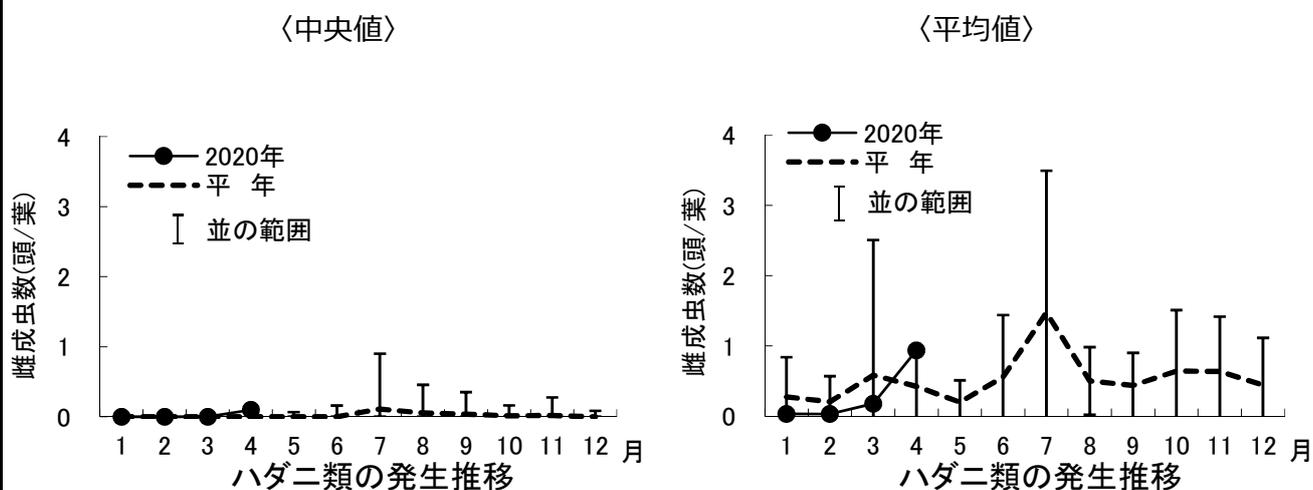
- ・ 新梢数が基準に満たなかったため4月のデータなし
- ・ 発生ほ場率：平年43.9%

防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は、ほ場外に除去する。

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>	
予報	5 月の発生量 (平年比)	並		
	4 月からの増減傾向	↓		
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果



- ・ 発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・ 発生ほ場率：50% (平年40.3%)
- ・ 新梢での寄生雌成虫数：新梢数が基準に満たなかったため4月のデータなし

防除のポイント

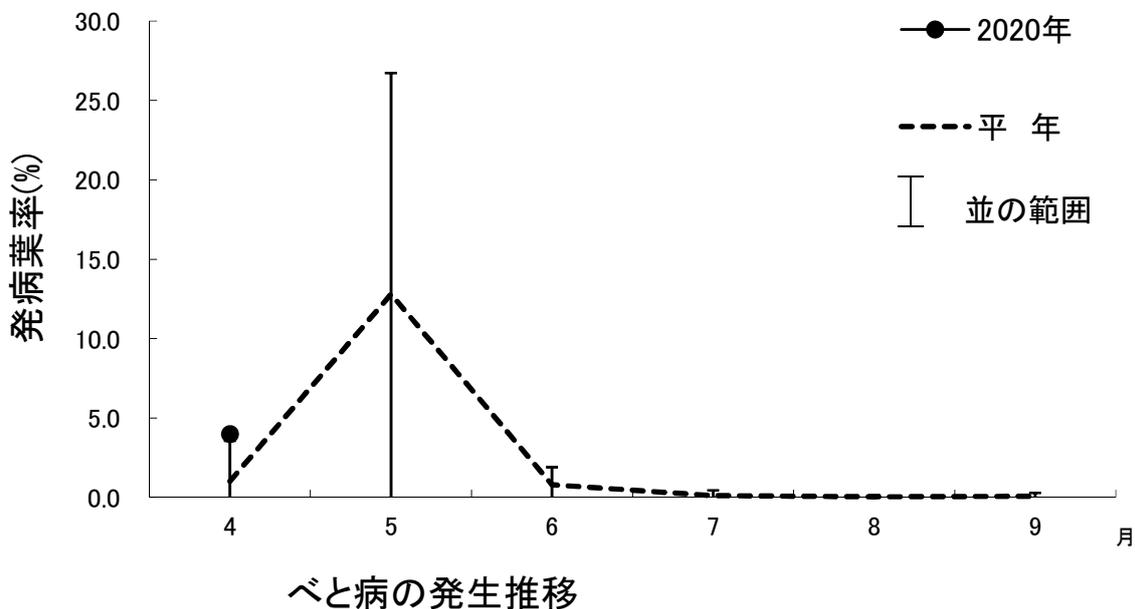
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	① ベと病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の降水量が平年並の見込み	

調査結果



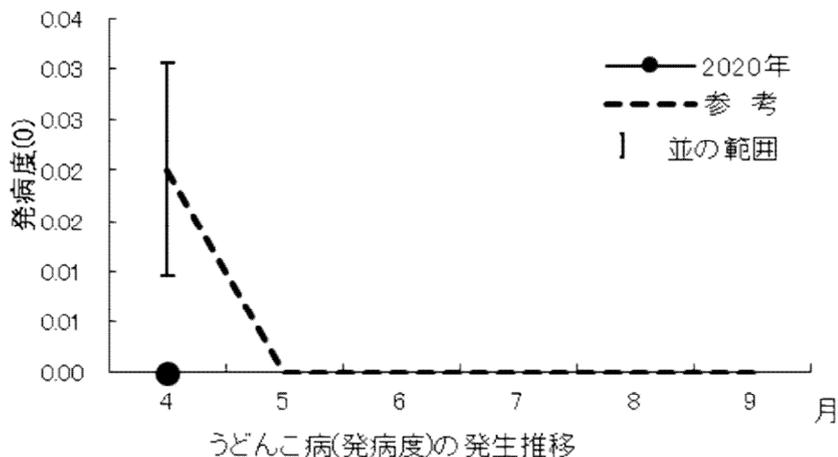
防除のポイント

- ・ 気温が10～25℃で多湿条件下で発生しやすい。
- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 適正な施肥管理を行う。



作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	4 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘) 今後 1 か月の気温が平年並の見込み	

調査結果

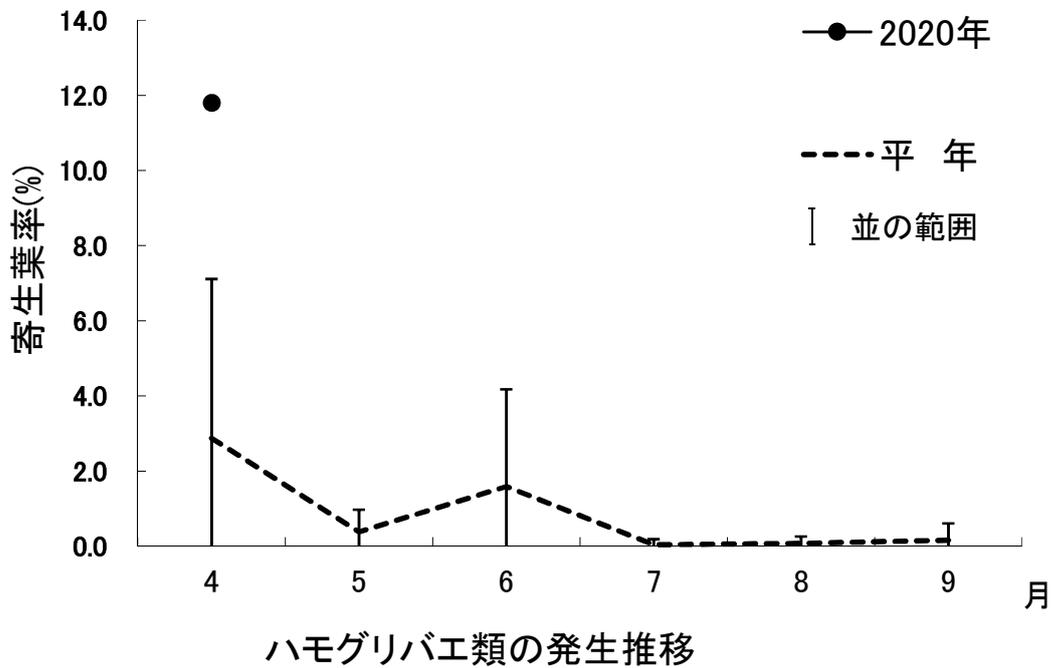


防除のポイント

- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 窒素質肥料の多施用は避ける。
- ・ 発病初期から登録薬剤を散布する。

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	4 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓) 今後 1 か月の気温が平年並の見込み	

調査結果



防除のポイント

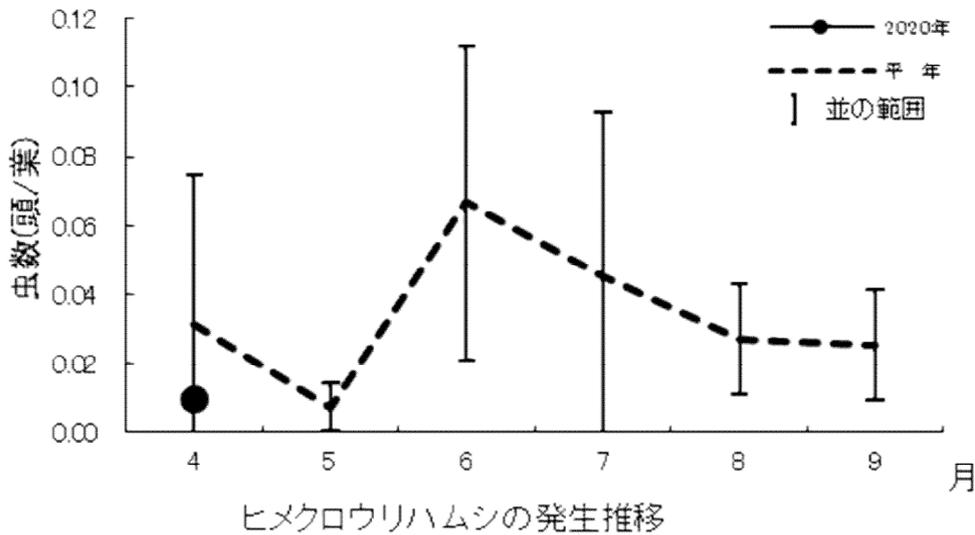
- ・ 本種の寄生痕から病害が侵入する可能性があるため、発生初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるので除去する。



幼虫

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ヒメクロウリハムシ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘) 今後 1 か月の気温が平年並の見込み	

調査結果

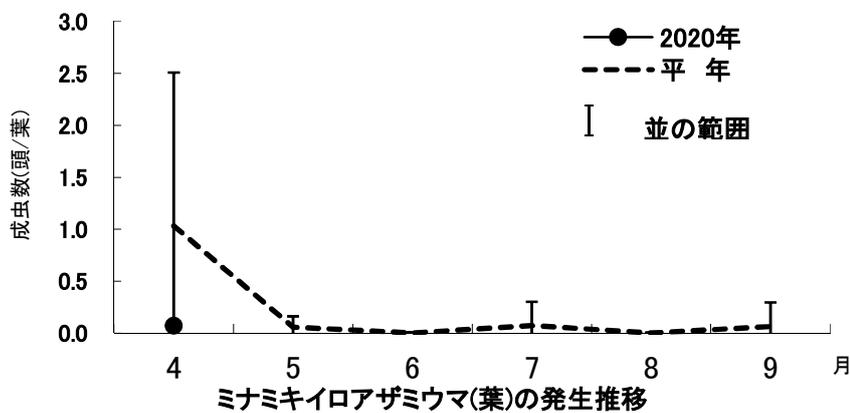
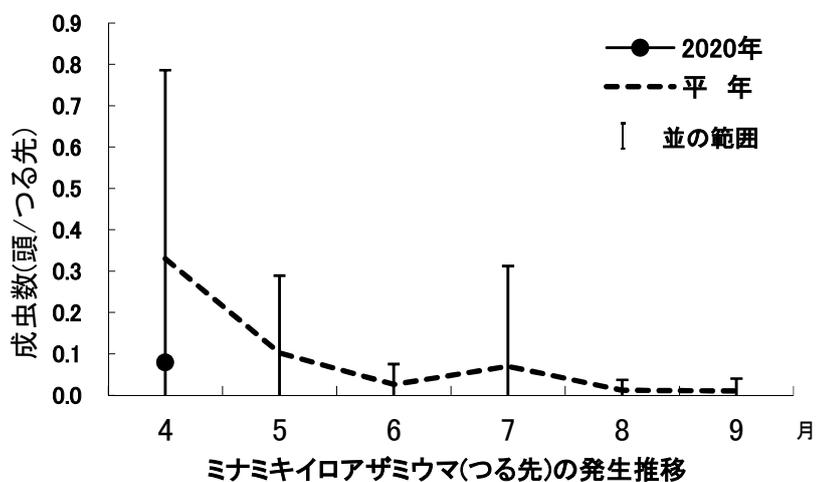


防除のポイント

- ・シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
- ・ほ場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
- ・産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。
- ・動きの鈍い午前中に成虫を捕殺する。

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミナミキイロアザミウマ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	つる先の平年の発生量の推移 (↘) 今後 1 か月の気温が平年並の見込み	

調査結果

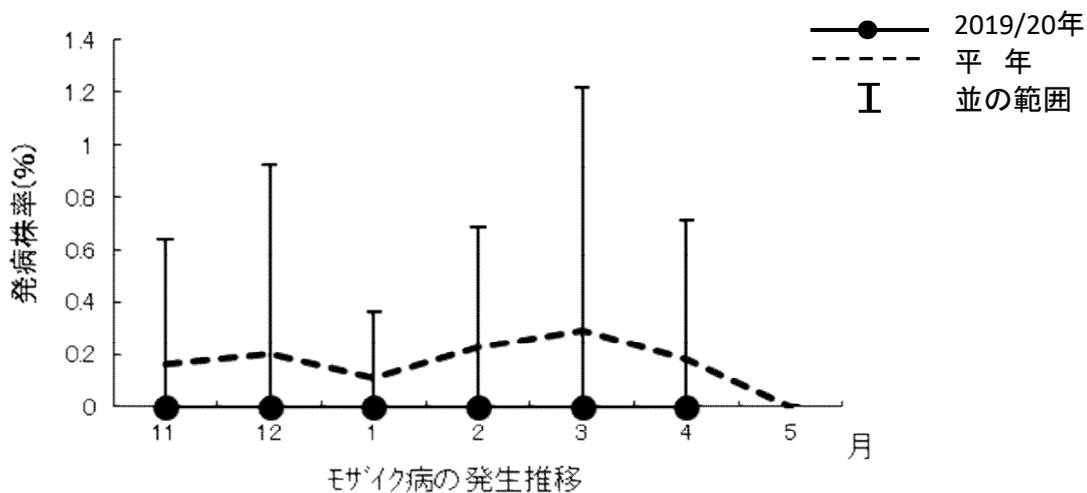


防除のポイント

- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・ 多くの雑草に寄生するため、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	モザイク病(スイカ灰白色斑紋ウイルス以外)		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

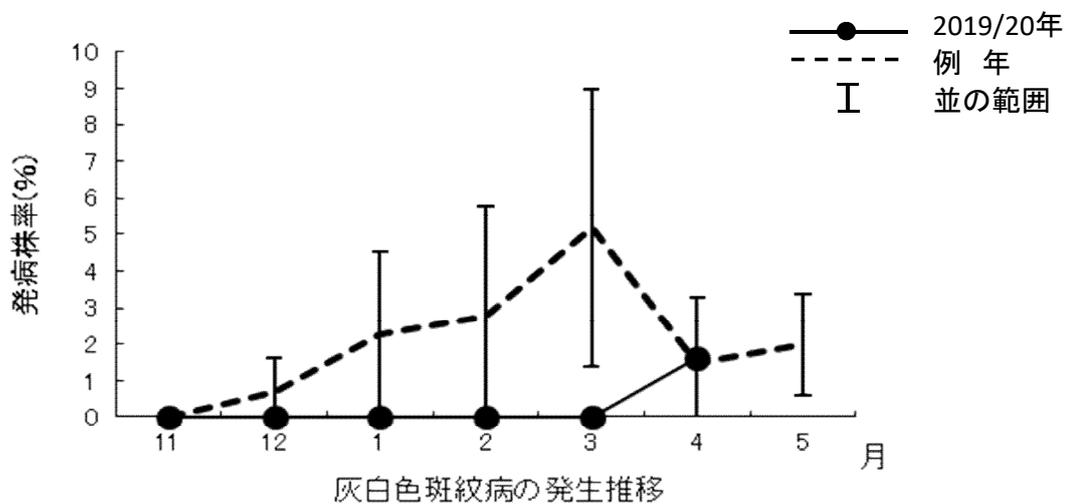


防除のポイント

- ・ 灰白色斑紋病以外のウイルス病は主にアブラムシ類によって媒介される。
- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	モザイク病(スイカ灰白色斑紋ウイルス)		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	例年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

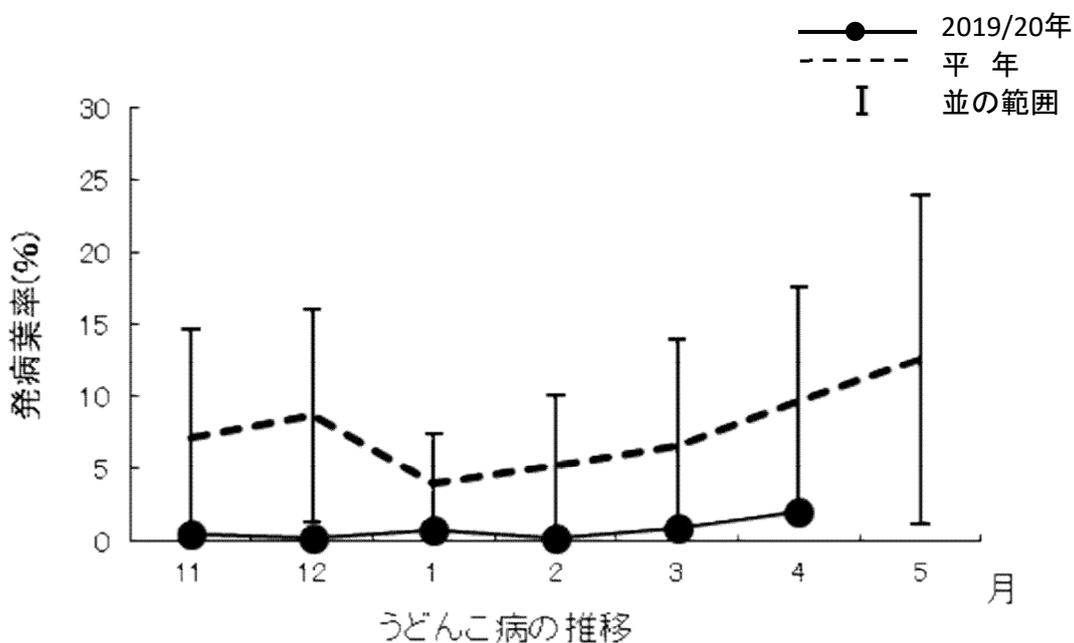


防除のポイント

- ・媒介虫であるミナミキイロアザミウマの侵入防止、早期発見・早期防除に努める。
- ・発病株は感染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	ゴーヤー(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病			
予報	5 月の発生量 (平年比)	並		
	4 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

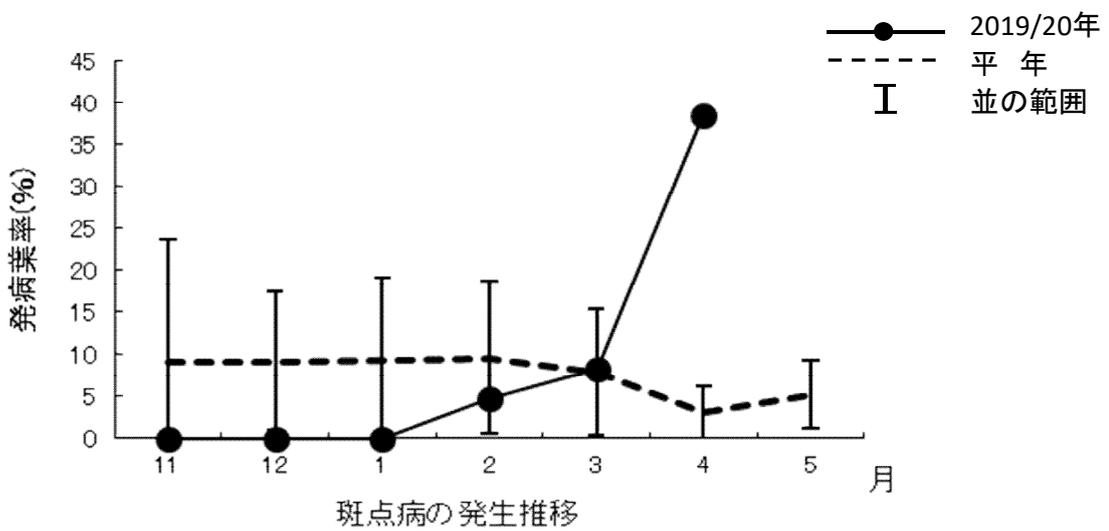


防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ゴーヤー(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① 斑点病			
予報	5 月の発生量 (平年比)	多		
	4 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	多		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

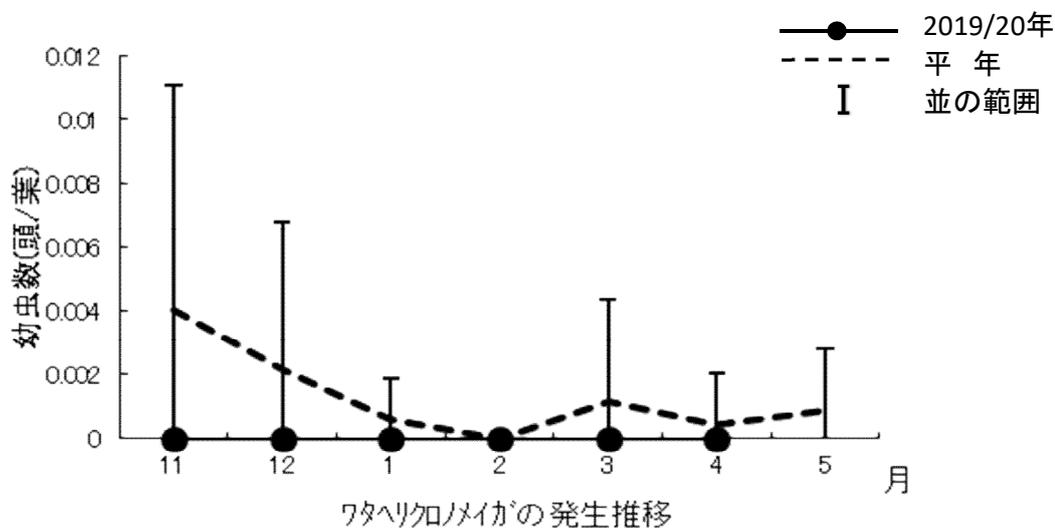


防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ワタヘリクロノメイガ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



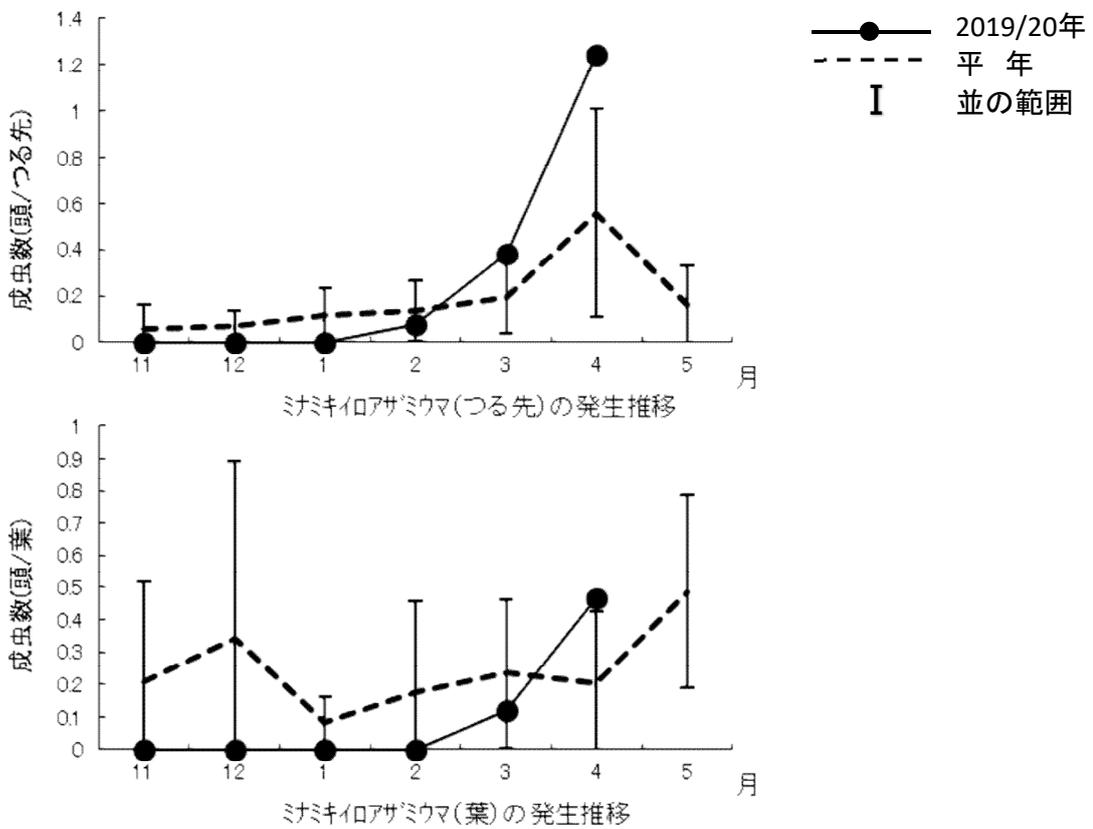
防除のポイント

- ・老齡幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齡期の防除が重要である。



作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	4 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	つる先当たり成虫数が平年よりやや多いため 平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果



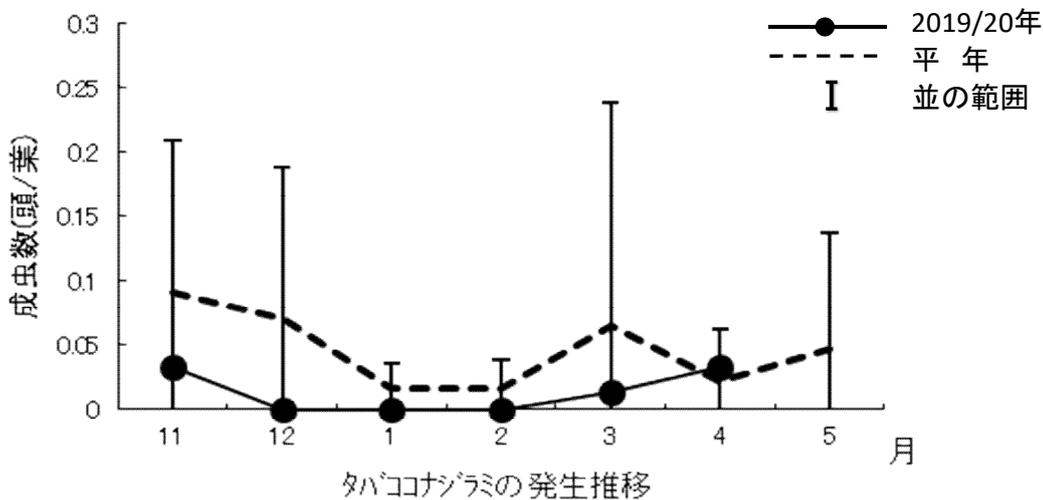
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

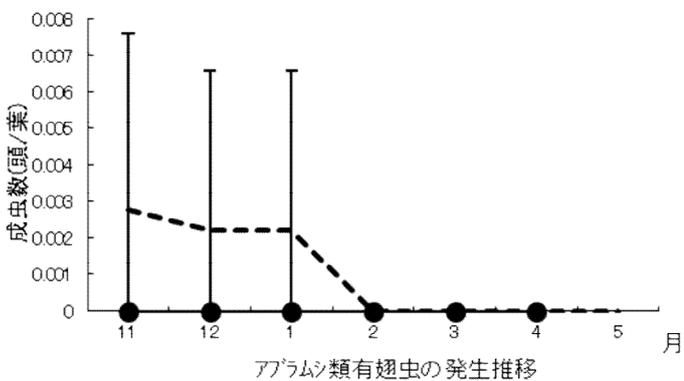
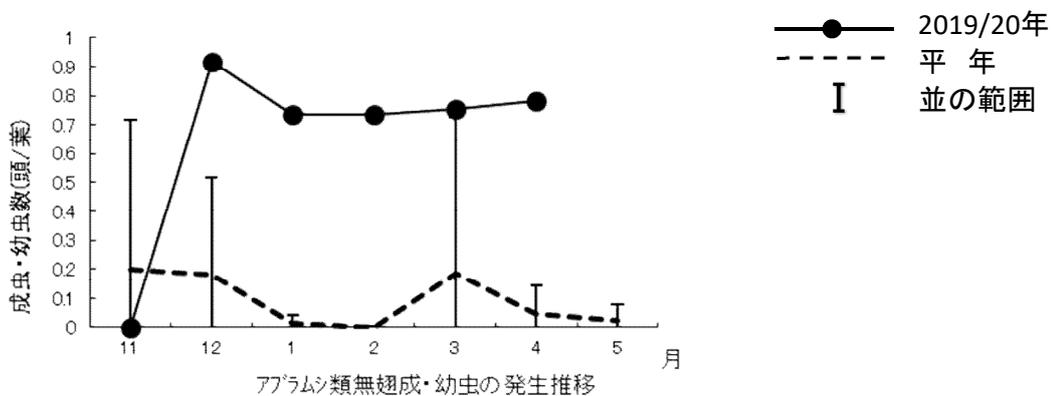


防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	4 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果



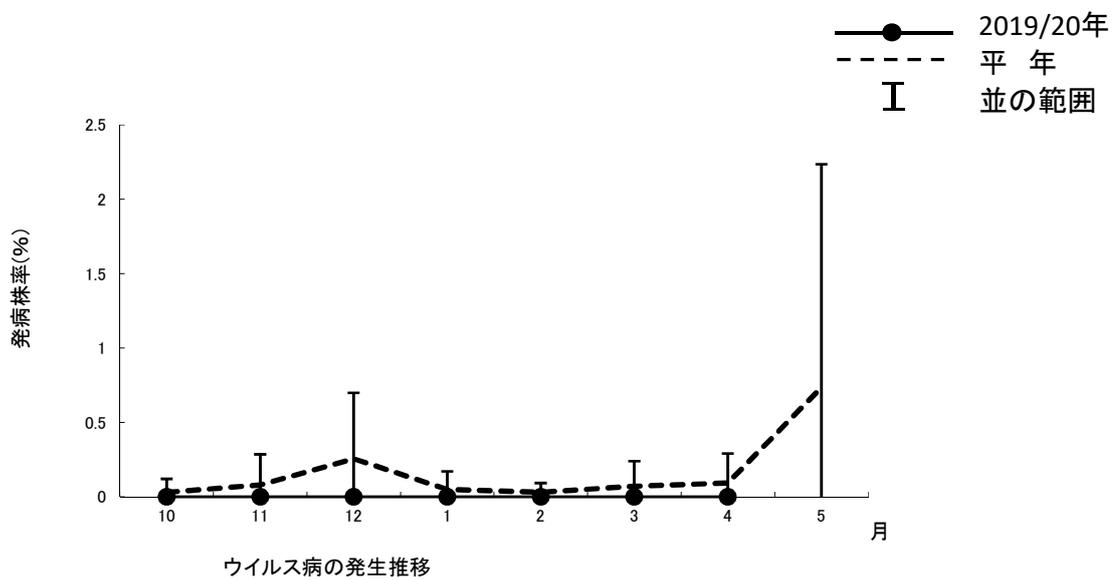
・一部ほ場で多発した。

防除のポイント

- ・本種はウイルス病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	モザイク病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

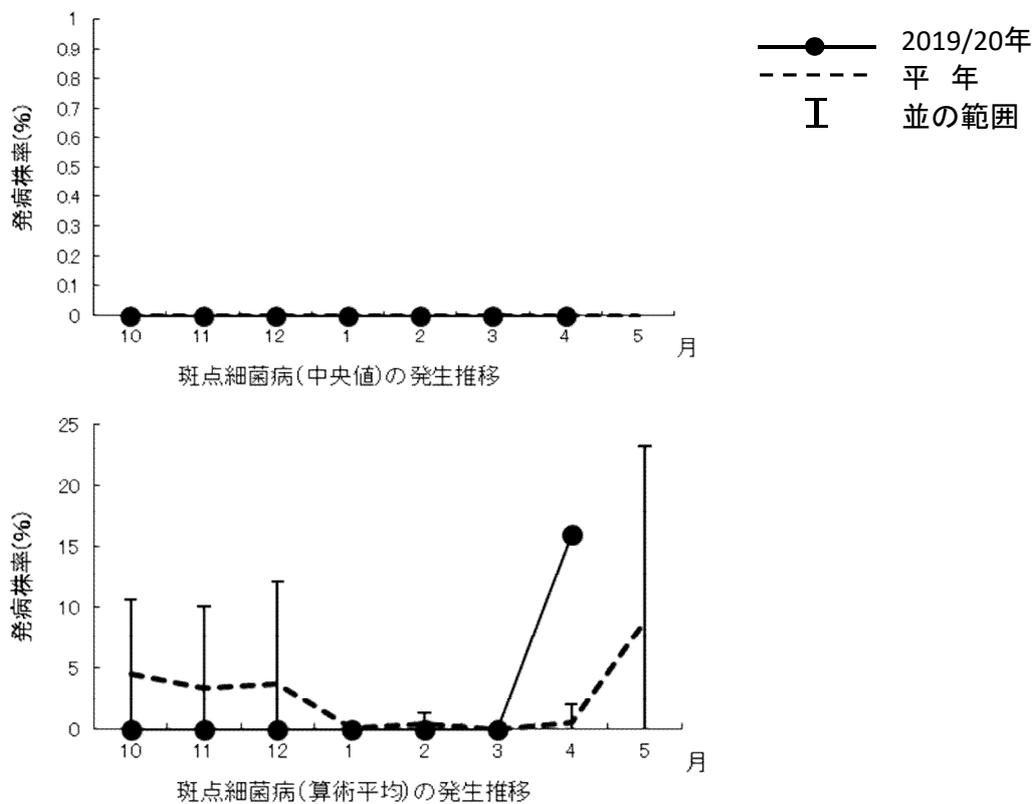


防除のポイント

- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	斑点細菌病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



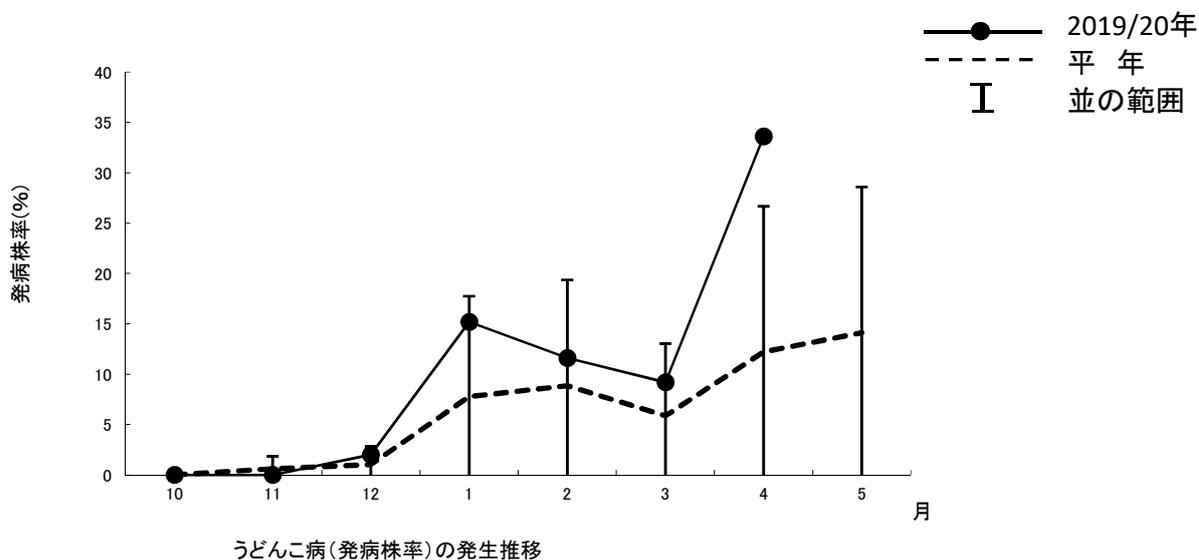
・一部ほ場で多発した。

防除のポイント

- ・本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも発生する。
- ・ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



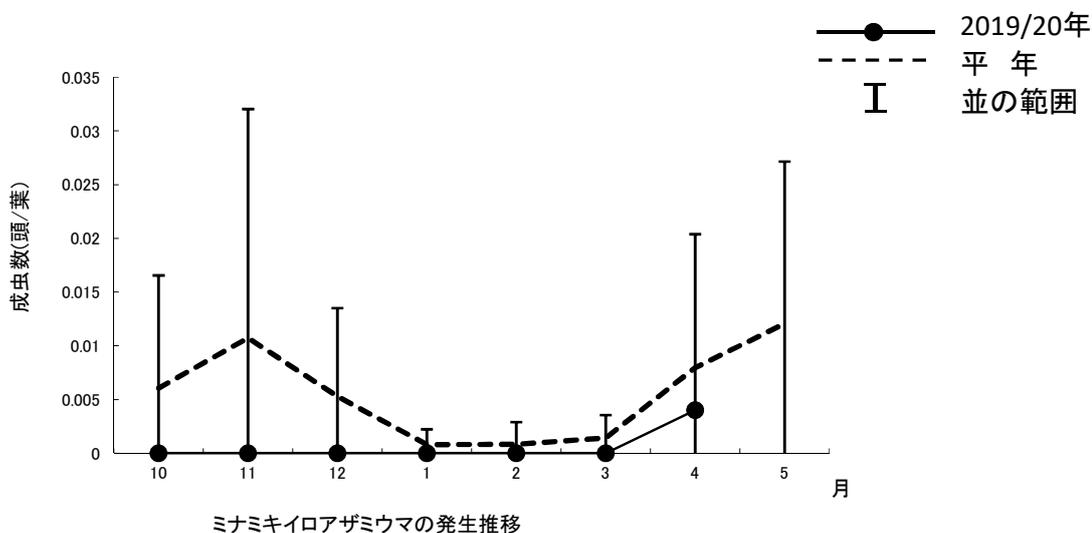
- ・分生子の形成・発芽適温は、25～30℃である。

防除のポイント

- ・通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

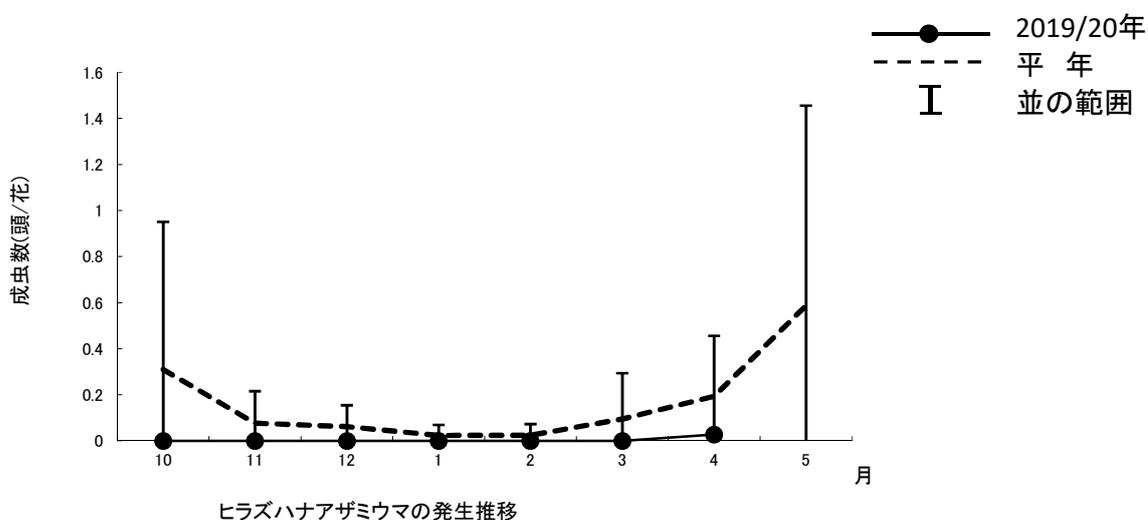


防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス及びトウガラシ退緑ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ヒラズハナアザミウマ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

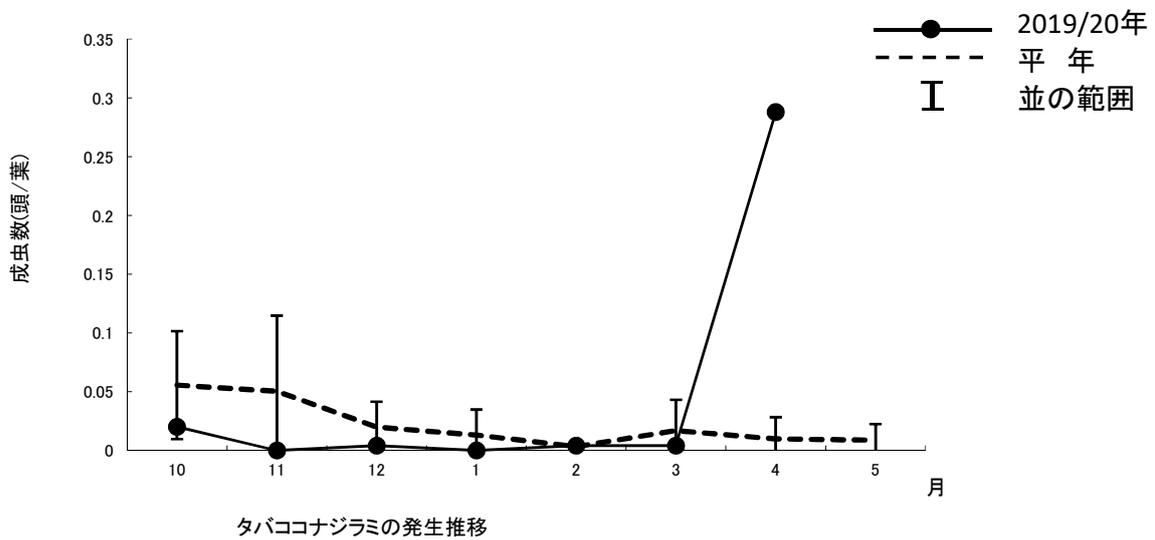


防除のポイント

- ・本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へ夕部や果梗部が黒変する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	多	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



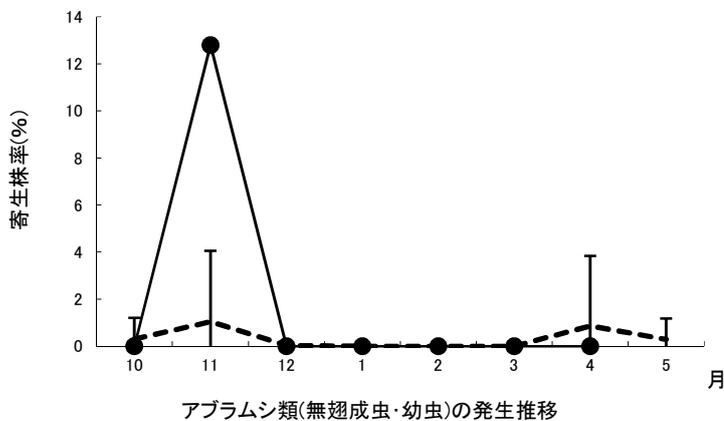
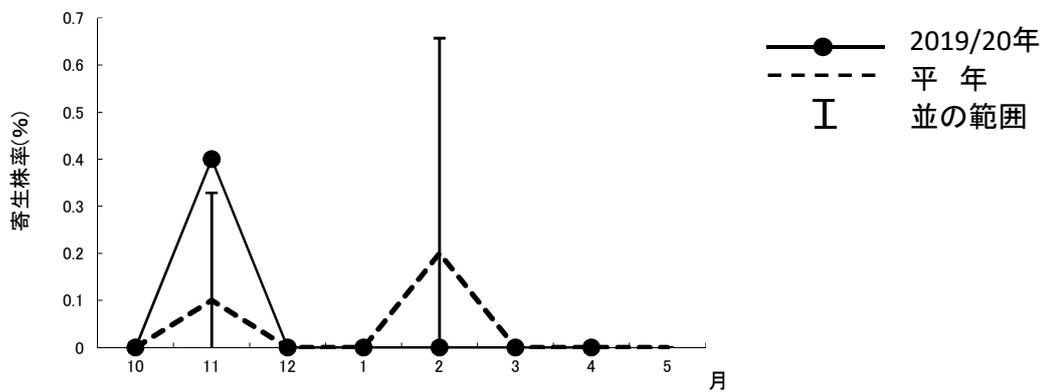
防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。



作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

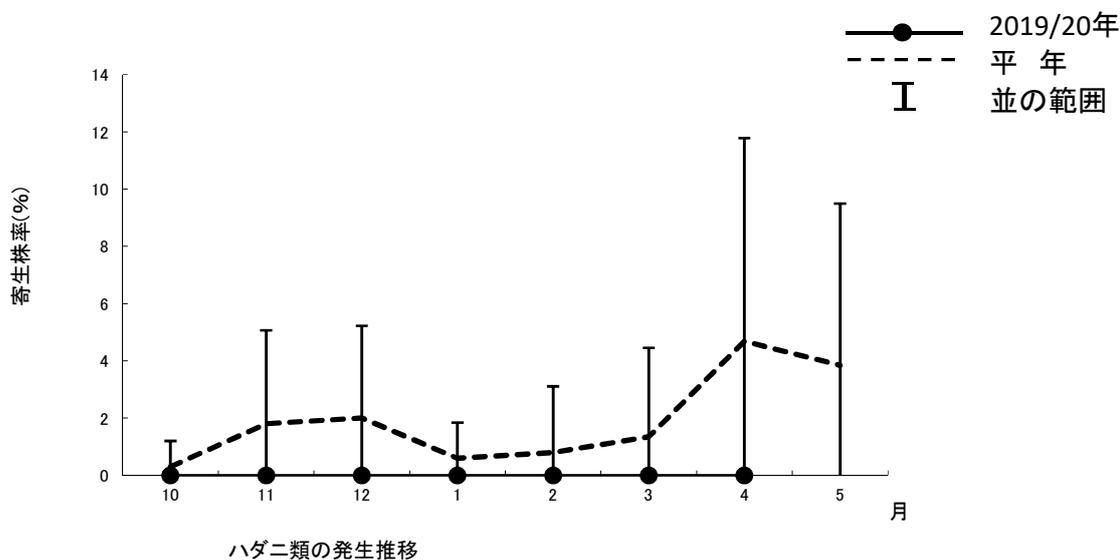


防除のポイント

- ・本種はモザイク病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>ナンゴクナミハダニ</p>
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



防除のポイント

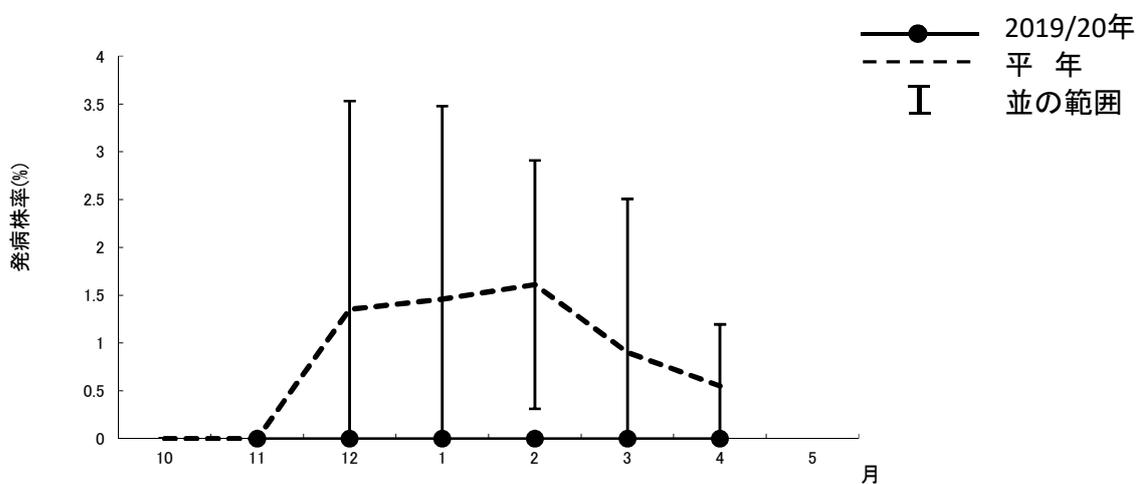
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。



ナミハダニ

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	菌核病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	—	
	4 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果



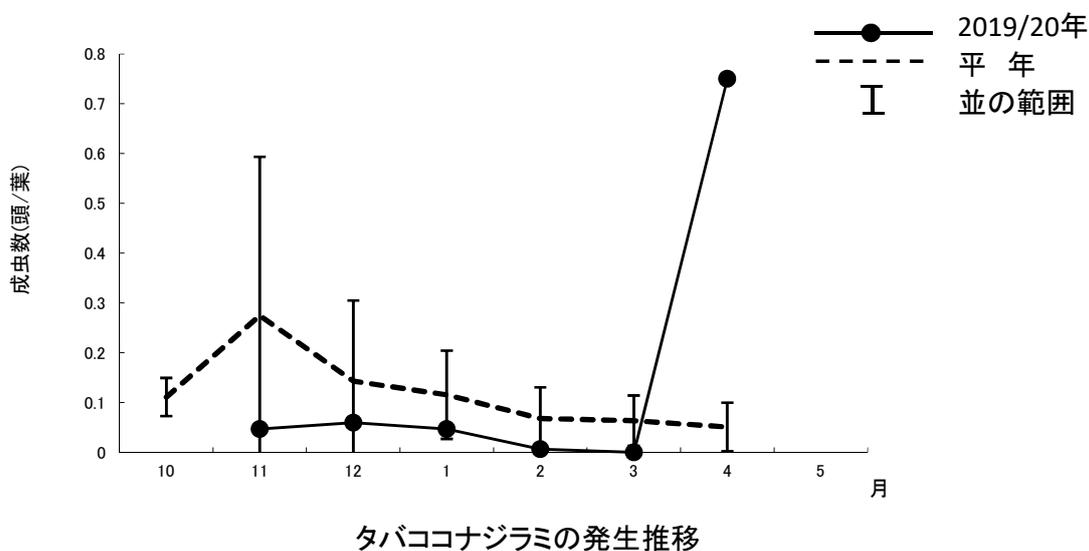
菌核病の発生推移

防除のポイント

- ・ 発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、ポリ袋に入れるなどしてほ場外へ持ち出し処分する。
- ・ 多湿条件下で発生しやすいので、老葉病葉は取り除き透光通風をよくする。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	① タバココナジラミ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	—	
	4 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

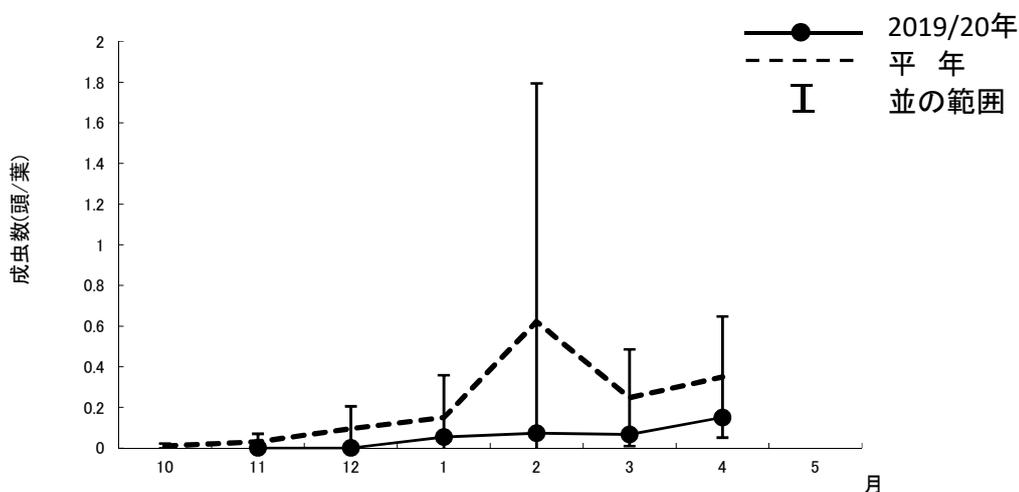


防除のポイント

- ・ ほ場周辺の雑草は発生源になるので除去する。
- ・ 本種はさやの白化を引き起こすので、出入り口の防虫ネットを二重にするなどして、施設内への侵入を防止する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	—	
	4 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果



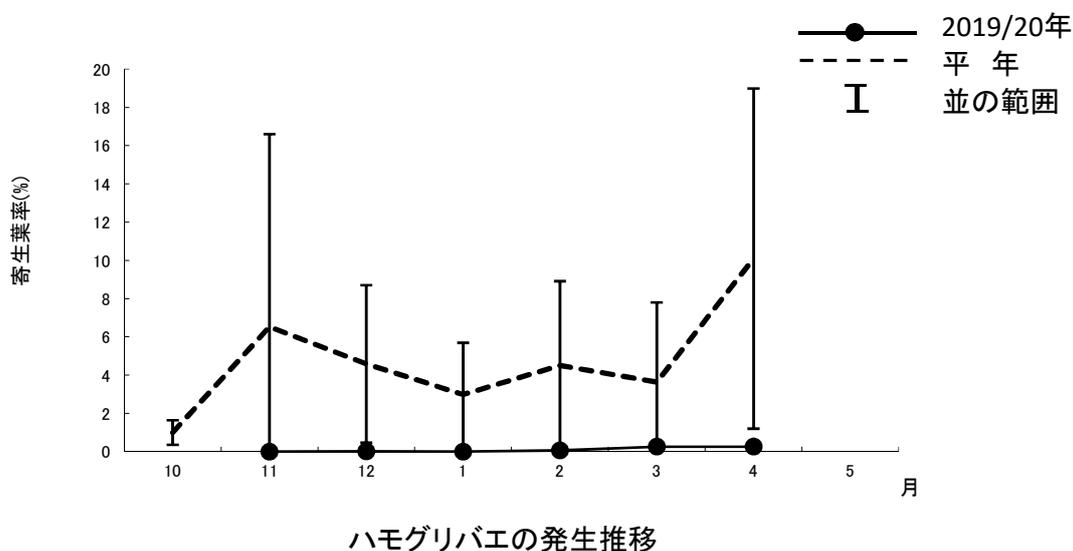
ミナミキイロアザミウマの発生推移

防除のポイント

- ・ ほ場の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	—	
	4 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)		

調査結果



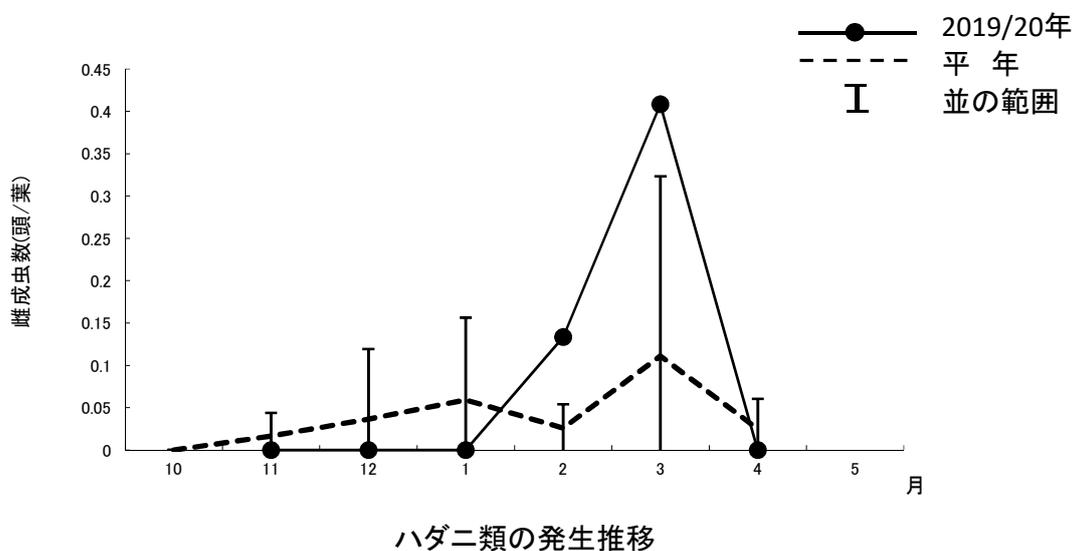
防除のポイント

- ・摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、ポリ袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本種は薬剤抵抗性が発達し、また野外に多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。



作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	—	
	4 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。